

作手地区路線の進捗状況について

■作手地区路線

- 7月17日 高校へのヒアリング実施（新城東高校）
- 7月18日 高校へのヒアリング実施（新城東高校作手校舎）
- 7月26日 第1回作手地区公共交通ワークショップ開催
- 8月28日 作手地区バス運転手ヒアリング
- 9月20日 豊田市下山地区デマンドオペレーター視察
- 11月中 常連客ヒアリング
- 12月4日 第2回作手地区公共交通ワークショップ開催

作手地区ワークショップの様子



デマンド視察の様子



作手地区実施結果まとめ

■高校ヒアリング（作手地区に係る部分を抜粋）

○新城東高校

- ・作手地区の生徒は10人が毎日、バスを利用して通学している。
- ・朝補習は7時40分、始業は8時40分、終業は15時35分、部活（居残り学習も含む）は19時、半日日程（テスト期間中）は12時、半日日程（保護者会及び始業式・終業式）は12時40分といった時間割になっており、それぞれの時間に合わせたバスで登下校している。

○新城東高校作手校舎

- ・作手線を利用している生徒は全校85人のうち51人。
- ・寮生も月曜日と金曜日は利用するため、85人のうち64名は利用していることになる。
- ・作手地区の子でも守義線を利用している生徒が4名いる。
- ・八名や東郷の子は自転車や送迎でバス停まで行き、そこからバスを利用している。
- ・鳳来の子は電車や原付でバス停まで行き、そこからバスを利用している。
- ・作手地区でもバスが通っていない地区の子は原付で通学することもある。
- ・始業は8時20分、終業は15時10分、部活は17時と18時（季節に合わせて変更）、テスト期間中は12時30分という時間割になっており、それぞれの時間に合わせたバスで登下校している。

■運転手ヒアリングまとめ

○守義線の利用状況

- ・30人ほどの人が定期的に利用しており、乗車するバス停までの把握ができています。
- ・目的地としてはほとんどが支所周辺である。
- ・作手線に乗り継いで、定期的に新城市街地まで行くという人は3人ほどである。
- ・支所周辺まで来ないで、途中で下車するという人はほとんどいない。

- ・一般の人の利用パターンとしては、朝の便で来て、昼に帰るというものであり、夕方から夜の便を利用するという一般の人はほとんどいない。
- ・まるっきり1日乗らないという日は土曜日を除けない。

○つくであしがる線の利用状況

- ・20人ほどの人が定期的に利用しており、乗車するバス停までの把握ができています。
- ・曜日ごとに違うルートを運行しているので、それぞれの地区に定期的に利用する人がいるが、土曜日の利用はほとんどない。
- ・目的地としては支所周辺がほとんどであるが、たまに郵便局への用事やゲートボールをするために途中で降りる人がいる。
- ・作手線に乗り継いで、新城市街地まで行くという人はほとんどいない。
- ・手作り村やB & Gといった施設への利用はほとんどない。
- ・夕方に運行する4便の利用はほとんどない。
- ・基本は1便で来て、2便で帰る、診療所が混んでいれば、3便で帰るというパターン。
- ・バス停から家が離れすぎているために、買ったものを持っていくことができず、支所周辺まで来るが、買い物ができないという人がいる。
- ・フリー乗降ではあるが、バス停で乗る人とそれ以外の割合は半々くらい。

○デマンド運行に関する意見

- ・バス停から家までが遠く、買い物ができないといった方もいるので、デマンド運行にする意味はあると思う。
- ・高齢者の方は耳が遠く、バスの車内で会話をしているにもかかわらず、話が通らないということがあるので、電話予約だけだと支障が出るのではないかと感じる。
- ・現在の利用者の方の家の近くまで入っていくには、現状のバスタイプの車両では無理なため、最低でもハイエースタイプくらいの車両にすることが必要。

平成30年度第1回 作手地区公共交通ワークショップ

テーマ：「実際の運行に向けた準備をしましょう」

開催日：平成30年7月26日（木） 19：30～21：00

開催場所：作手総合支所 会議室

参加人数：12人（地域協議会委員、民生委員協議会委員、バス運転手、バス利用者、老人クラブ会員、作手診療所職員、社会福祉協議会職員）

意見まとめ

A班

- ・作手線は現状の時間のままが良い。
- ・高里7：30のバスに乗るために親が送り迎えをしているので、その時間にも対応が必要。
- ・守義線については、1便は中学生の通学にちょうどよいので現状のまま残す。帰りについては時期によって時間が変わるのでデマンドで対応する。
- ・あしがる線については曜日によって利用者に不公平が生まれており（水曜日はAコープがやっていない等）、木和田の人がバス停から家が遠いため、買い物ができないという問題が発生しているため、オールデマンドが良い。
- ・小中学校のスクールバスをうまく利用することも必要になってくるのではないか。

B班

- ・デマンド運行となっても、現状の利用者にも、そのまま乗ってもらい、乗合率を高めるために利用実態の調査・アンケートを実施する。そうすることにより、運行のシュミレーションができる。
- ・今までの定期定路線運行は市民がバスに合わせる形であったが、デマンド運行になれば、バスが市民に合わせることになる。予約があっても、乗車ができないことがあるため、ルール作りが必要。
- ・予約の受付方法についても、詳細なルール作りが必要。
- ・ドア・ツー・ドアという運行についても、玄関前まで行くのか、物理的にバスが入っていけるところまでなのかを決める必要がある。

- ・最終の時間を忘年会シーズンは22時までにすることで利用が増えるのではないか。
- ・イベントがある日は日曜日でも運行すれば利用者増とイベントへの参加者増につながるのではないか。

C班

- ・バスを利用する人は診療所を目的にする人が多い。新城や作手地区内の他施設に行く人とのすみわけ、ルール作りが必要。
- ・診療所の診療時間は火曜日と水曜日が午前中のみとなっているため、あしがる線の火曜日便、水曜日便の沿線地区の住民は利用がしにくくなっている。そうした現状があるため、デマンド運行は便利。
- ・帰りの便の予約をどうするか（診療時間に幅があるため）はクリアすべき課題である。
- ・オペレーターへの受付の際に診療所の情報等も合わせて紹介してもらえると、利用者の方の利便性向上につながる。

■常連客ヒアリング

○守義線

作手中学校生徒

- ・授業や部活、テストの有無にかかわらず、行きは1便を利用、帰りについては部活がない場合は4便、部活がある場合、夏季は5便、冬季は4便、テスト期間中は3便を利用。
- ・3便から4便までに時間があるため、その間にもう一本便が欲しい。
- ・休みの日もバスが欲しい。

新城東高校作手校舎生徒

- ・授業や部活、テストの有無にかかわらず、行きは一便を利用、帰りについては通常の場合は4便、テスト期間中は3便を利用。
- ・休みの日にこのバスを利用することはない。

一般利用者

- ・このバスを利用する目的は買い物が多く、週に1~2回は利用している。
- ・利用の仕方としては、朝の便で来て、用事を済ませてから昼の便で帰るといったパターンが多い。

■常連客ヒアリング

○つくであしがる線

一般利用者

- ・このバスを利用する目的は買い物と病院が多く、週に1~2回は利用している。
- ・バスはなくさないで欲しいが、新城に行きたいときに不便、タクシーよりも安くバスより本数が多い移動手段があると良い。
- ・火曜日しか診療所へ行くことができないので、不便。
- ・鳳来の塩瀬線との連絡があると良い。
- ・病院での診療時間の関係で、帰りがいつになるか分からず、バスに乗れないことがあるので不便。
- ・デマンドについて、家の前まで乗り入れなくても、近いところの道沿いでも十分だと思う。
- ・バス停まで少し遠いが、家の前でフリー乗降ができるので良い。
- ・新城の病院へ行きたいが、自分の家から作手線のバス停が遠く、乗継時間も分からないため、行けない。

平成30年度第2回 作手地区公共交通ワークショップ

テーマ：「実際の運行に向けた準備をしましょう」

開催日：平成30年12月4日（火） 19：30～21：00

開催場所：作手総合支所 会議室

参加人数：19人（地域協議会委員、民生委員協議会委員、バス運転手、バス利用者、老人クラブ会員、作手診療所職員、社会福祉協議会職員）

意見まとめ。

A班

運行時間について

- ・南地区の人が作手診療所に8時頃に着くことができる時間帯を配慮。
- ・診療所からの帰り時間が読めないのが、当日でも空きがあれば予約を受け付けるようにすれば良い。
- ・休日の市のイベントなどがある日に臨時で運行してはどうか。
- ・高校生への利用にあたってのアンケート調査を行ってみてはどうか。
- ・北地区と南地区の運行時間が公平になるようなダイヤを希望。

乗降場所について

- ・基本的にはドアツードアが良いが、地域ごとに共通の乗降場所（バス停）があった方が良い。
- ・細い道や転回場所の確保、初めていく道の場合夜間の道幅確認が困難などある程度目標物があると良い。

試行期間

- ・試行運行として1年ぐらいやってみて、仕組みを改善していくようにする。

オペレーター

- ・土地勘のある人を採用した方が、運行がスムーズにできるのではないか。
- ・予約が7日前からとなっているが、診療所の予約なども考慮すると1か月前からできるようにした方が便利ではないか。

B班

運行時間

- ・果たして2時台からの2時間くらいの利用があるのか。
- ・作手線が高里に20時15分に着く。その後の足の確保は考えなくてよいのか。

予約

- ・予約を近くの人にやってもらうための「予約おまかせカード」を発行する。

利用登録

- ・利用登録者のニーズを実現できるようにアンケートなど話を聞く機会をつくる。

周知

- ・運行の体験機会など

乗降場所

- ・道の駅は駐車場内に入るようにした方が良い。
- ・やはり、診療所、Aコープ、総合支所の利用者が多いのではないか。

C班

予約

- ・電話ができない人がどのように予約できるのか。

- ・登録することも困難な人がいるのではないか。登録をしてもらうためのPRに尽力しなければならない。
- ・運転手や診療所などに利用登録が必要な人をピックアップしてもらい、登録やアンケートに協力してもらう。
- ・運転手は、運転するだけでなく利用者との対話が重要になるので、運転手、オペレーターになる人も、土地だけでなく、地元の人を知っている人がよい。
- ・ルール決めは必要だが、当日でも乗れるようになると良い。
- ・学校は予約の仕方を協議する。

バス停

- ・新しい仕組みにより混乱すると思うので、現在のバス停をそのまま使う。減らさない、増やさない。利用する側の目印としても活用できる。

運行

- ・現在の時刻表を参考時間として活用して、予約があればルートを変更する。ざっくり何便で乗るという予約ができる。基本的にはこの時間帯に走ることがわかっているならば、住民の不安も減る。